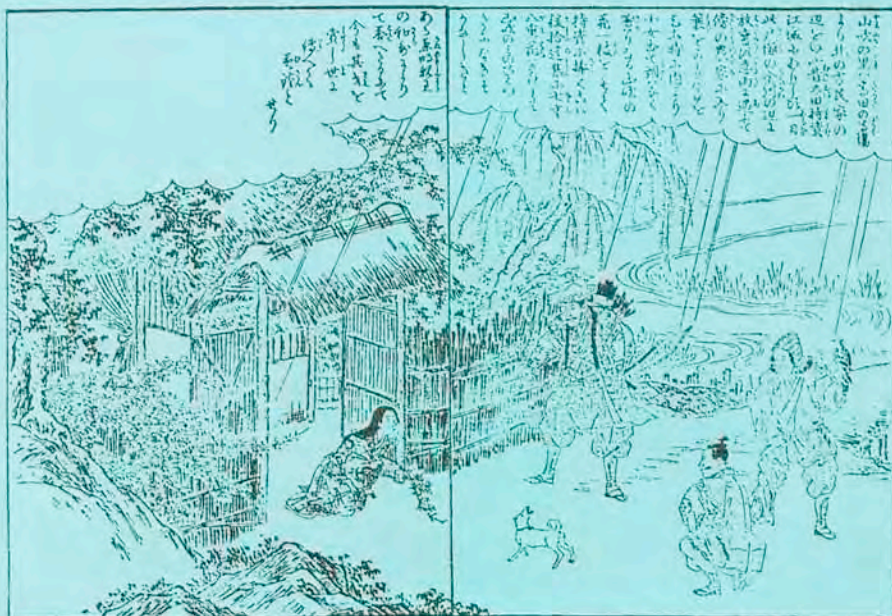


かたりべ48

豊島区立郷土資料館だより

山吹の里伝説の謎

豊島区の高田から新宿区山吹町にかけての辺りとされている「山吹の里」の伝説は、豊島氏を滅ぼした太田道灌に関する伝承としてあまりにも有名です。



長谷川雪旦画「江戸名所図会」より

ある日、鷹狩りでにわか雨に遇った道灌が、農家に蓑を借りに立ち寄るが、その娘に山吹の一枝をさしだされる。後日、「七重八重……」という古歌になぞらえて返答をしたのだと知らされ、それ以来歌道にいそしんだ。という物語です。

この伝説が成立したのは一八世紀の中期頃とされていますが、典拠とされる書物によって、山吹を差し出したのが若い娘であったり、老女であったり。和歌の意味を教えたのが中村重頼なる人物とされていたり。娘の名前が「紅皿」とされ、道灌の妾となって二子を宿したり、様々なバリエーションがあります。

興味深いのは、河竹黙阿弥による「歌徳患山吹（うたのとくめぐみのやまぶき）」という狂言です。この物語は、

道灌は、山吹を差し出した娘の家で休んで娘の琴を聴く。実はこの家、道灌によって滅ぼされた豊島氏の家臣の隠れ家で、娘は豊島氏の息女であった。家の者たちは、仇とばかりに道灌に切りかかるが、道灌は豊島氏との合戦の様子を聞かして誤解を解き、豊島氏の形見であった観音像を娘に与えて江戸の館に帰る。

というものです。

最後の、豊島氏の形見の観音像を娘に与える下りは、後三年合戦の際に豊島氏の館で、源義家が豊島氏に十二面観音を下賜したという伝承との関連を伺われます。

「豊島氏とその時代―中世の豊島区―」から

平安時代末期から室町時代中期にいたる中世という時代、豊島区域は豊島氏という有名な武士団に支配されていました。

郷土資料館では、この区名を冠した中世武士団豊島氏の関係史料調査を行っています。その成果はこれまで「豊島・

宮城文書」「豊島氏編年資料集Ⅰ」「豊島氏編年資料集Ⅱ」の中世豊島氏関係資料集全三冊として結実し、高い評価を受けています。これらは郷土資料館が組織

する中世豊島氏研究会（略称・豊島氏研、あるいは豊島研）の活動成果に基づくもので、一九八七年に組織してから今年で満一〇周年を迎えました。折しも本年は、

豊島氏に深く関わっている北区・板橋区教育委員会との共催で「豊島氏シンポジウム 豊島氏とその時代」が催され、板

橋区立郷土資料館では、特別展「豊島氏とその時代―中世の板橋と豊島郡―」が

開かれるなど、武蔵豊島氏に関する研究

は新たな段階を迎えたと言っても過言ではありません。そこで、本展示ではこれまでの豊島氏研の活動報告と合わせ、豊島氏が生きた中世という時代を、様々な視点より浮き彫りにしてみました。展示内容は次のとおりです。

- 1、豊島氏研究会10年の軌跡
 - 2、豊島荘と熊野信仰
 - 3、中世の痕跡―発掘された中世―
 - 4、「豊島・宮城文書」の世界
 - 5、豊島氏の生き残り
 - 6、今に息づく豊島氏
- 細かい内容は、展示資料目録と解説リーフレットを参照していただきたいと思いますが、ここでは、6の中から解説には盛り込めなかった展示資料について簡単にご紹介しましょう。

◆区内に残る中世伝承◆

残念ながら、区内には中世豊島氏の痕

跡はほとんどありません。しかし、伝承に注目すれば、その多くが荒唐無稽なものとはいえ、その成り立ちを探り、歴史的背景を見ることがよって、幾ばくかの真実が浮かび上がってくる可能性があります。史料の少ない中世という時代や、地域史を研究する場合、伝承は特に必要なものです。ここでは、区内の中世伝承を探ってみましょう。

①鼠山（目白五丁目） 太田道灌が豊島氏を攻めるときに斥候を置いた跡で、「不寝見山」からこの名が付いたとされる。また、源頼朝が奥州から帰陣した際の監視所であったとする説もある（「高田町史」）。

②長崎 長崎村は近世以前からの村名である。また、「吾妻鏡」に長崎次郎なる武士の名を見ることが出来る（「長崎町誌」）。

③椎名町 千葉氏の一族に椎名氏を称

するものがおり、関連を伺わせるが証拠はない（高橋源一郎『武蔵野歴史地理』第一巻）。

④弦巻川（南池袋一丁目、現在暗渠）源義家がこの川で戦い、弓の弦を巻いたことからこの名が付いたと伝えられる（『高田町史』）。

⑤姫塚（南池袋三一八―一八 法明寺墓地内） 楠木正成息女の墓と伝えられているが定かではない。墓碑に見える中沢・浅井両氏が武運長久を祈って建立したとも解せる（『高田町史』）。

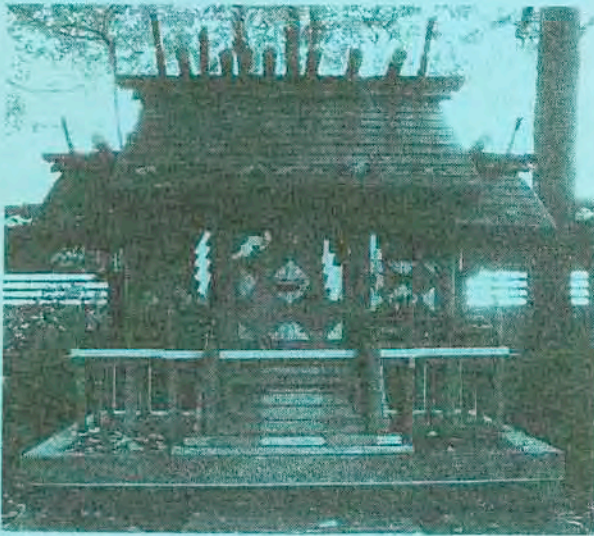
⑥妙義神社（駒込三一六一―一六） 太田道灌が豊島氏を攻めるときに戦勝祈願を行なった（『新編武蔵風土記稿』など）。

⑦宿坂（高田一―三五） 鎌倉街道が通る。文明年間頃（一四六九―八七）まで関所が置かれており、土地の人々は「たちちようば（立丁場）」と呼んでいた（『高田町史』）。

⑧根津山の旗洗いの池 かつて根津山と呼ばれていたあたりには、道灌が石神井城の豊島氏を攻めた帰り、旗を洗った

池があったとされる（『高田町史』）。なお、かつて人世坐が建てられていた場所（現在の東池袋一―二付近）に池があったと伝えられている。

⑨天祖神社（南大塚三一四九―一） 文治五年（一一八九）源頼朝が奥州征討の折り勧請したとも（『新編武蔵風土記稿』）、元享年間（一三二一―二四）豊



熊野神社 天祖神社境内。もとは独立した社で字熊野窪（くまのくぼ）の由来となった。

島景村が創建したとも伝えられている（『天祖神社誌』）。写真は境内社であるが、豊島区唯一の熊野神社として貴重なもの。

今秋は、豊島氏の遺跡を訪ねるワールドワークから始まり、北区シンポジウム・板橋区立郷土資料館の特別展、というもう二度と無いような企画目白押しの数ヶ月でした。参加された方の声を載せてみましょう。

◇豊島氏のワールドワークにも参加させていただったので、面白さが倍増した地図・遺跡・古道が参考になった。（58歳・男性）

◇豊島研の活動説明面白し。（57歳・男性）

◇「トシマ」と読まなければならない姓名（名字）で全く苦労したので、トシマ・テシマには関心があった。全国の一覧は参考になった。（66歳・豊島さん・男性）

「今野」

中世史フィールドワーク（一九九七年九・一〇月）

「豊島氏の遺跡を訪ねて」の報告

秋、五百年から九百年以上も前に武蔵野を駆けめぐった武士団豊島氏の足跡を追って、外へ出ました。フィールドワーク「豊島氏の遺跡を訪ねて」は次のような行程で開催されました（主な見学地）

①オリエンテーション「豊島氏概説」

（勤労福祉会館）

9月21日

②豊島氏の勃興編（北区）

9月22日

平塚神社―無量寺―御殿前遺跡―王子神社―金剛寺

③豊島氏滅亡編（練馬区）

10月12日

石神井公園―氷川神社―三宝寺―道

場寺―練馬区郷土資料室

④豊島氏残照編（豊島区）

10月19日

南蔵院―鬼子母神―法明寺―金剛院

参加者は二十代から八十代までの健脚三〇名でした。一ヶ月にも及ぶ長丁場だったため、途中数々のハプニングがありま

した。講師急病により延期をやむなくされたことや、にわか雨に降られることも三回もありました（原因は講師雨男説もありましたが、カッパルに対する弁天様のお怒りのようです）。

寄せられたご感想のなかから一部を掲載してみましよう。

◇豊島区（郡か）にも歩いて見ると、今まで知らなかった旧跡がある事を教えて頂き、大変勉強になりました。また、歩くことに依って体の運動も出来、一石二鳥の効果を得ることが出来ました事、大感謝。（七〇歳代・男）

◇身近な所に今まで気付かなかった遺跡がたくさんあり、びっくりしました。過去の寺院を訪れて、大変興味深くお話を聞かせていただきましてうれしく思います。（二六歳・女）

◇豊島区を中心に歩いて色々と談話・講義を聴いたが、区域内には意外に同氏に

関するものが少ないことがわかった。

（七〇歳代・男）



練馬区石神井台氷川神社前にて

都市化され尽くした都内区部にも、中世武蔵野の息吹をわずかでも感じ取ることができません。暖かくなったら、出かけてみてはどうでしょうか。【今野】

第二回 収蔵資料展 「種子屋のあゆみ」をふりかえって

昨年10月7日から12月5日まで開催された収蔵資料展「種子屋のあゆみ」は、91年に当館に寄贈された榎本泰吉家資料の紹介と、エノモン会の整理・調査活動の中間報告として企画したものでした。

明治期から昭和戦前期にかけての種苗業のあゆみを、榎本家資料を中心に、北・板橋・練馬区などの北豊島郡域に残る資料も加えて構成しました。小規模かつ地味な展示でしたが、「種子屋」の展示はこれまで例がなかったせいか、地元住民や業界関係者が多く来館され、貴重な資料や情報を提供していただきました。今回予算の制約で「図録」が作成できませんでしたが、要望の声が多く寄せられたため、予算復活の暁には、展示成果を加えて刊行したいと考えています。

また関連事業として、地域史講座「種子屋と大根の歴史をたずねて」(3回)を実施しました。展示見学などの事前学習の後、「種子屋通りを歩く」(巣鴨)

北区滝野川の中山道周辺)と「大根街道を歩く」(練馬区の清戸道、富士大森道周辺)の現地見学(各約6km)を行ないました。定員30名のところ、予想を越える40名近くの応募があり、地域史に対する住民の関心の高さに驚きました。

最後に来館者の声をご紹介します。

◇内容が充実していて「手造り」のよさが出ていて、大博物館の展示のよそよそしさがなく、手ごたえがあります。(64歳・男)

◇資料の発見から中間報告までの経過も併せて展示してあるのがいい。(64歳・男)

◇エノモン会のご努力は大変なものと思えました。(38歳、男)

◇詳細な記録の保存の良さに驚きました。種子屋さんの職業的情熱を感じました。

(38歳・女)

◇農業の手伝いをしましたので、身近に感じました。現在は練馬大根のミニ博物館を開いています。(64歳・男)

◇東京近郊農村の急激な変貌に対して、資料(特に古い農機具など)の保存に努めていただきたい。(73歳・男)

◇ポランティアの方々が地区の産業史の発掘に取り組まれたことの意義は大きいと思います。関係者への聞き書きをすると思いが増すと思います。(69歳・男)

◇戦後の種子業界のこと、世界のこと等がぜひ知りたいところです。(53歳・女)

—ご協力有難うございました。「横山」



新寄贈資料！ 橋爪堆恩氏旧蔵資料

昨年一〇月、千川二丁目の橋爪修さんから、たくさんの資料を寄贈いただきました。お父上にあたる日本画家の故橋爪豊氏（号は堆恩）に関するものです。一九三七（昭和一二）年建築のアトリエ付和風住宅である橋爪氏宅が建て替えのため取り壊されるということで、区文化財係が調査をさせていただいた際、あわせて拝見させていただきました。

現在、鋭意整理中ですが、何分多量のもので、一六四点までカードをとったところでやっと三分の一になったかどうか、というところです。

主な内容は、画業にかかわるもの、趣味であった旅行関係の地図・絵はがき・観光案内、挿絵を描かれていた「主婦の友」関係のもの、戦時中や戦後直後の町会や豊島区に関するもの、などなどです。その中から一つを次に紹介します。敗戦直後の一九四五年十二月のもので、「臨時区常会付議事項（十二月十五日午後一

時 於豊島区役所会議室）」と題されています。区常会とは大政翼賛運動の下部組織で、区長を会長に、町会長を構成員としてつくられたものです。（漢字は新字体に、片仮名は平仮名に直し、適宜、読点とフリガナを入れました。）

町会及隣組設置運営に関する件

今般本部に於いては従来の町会規程を廃止し新たに「東京都町会部落会及隣組設置要綱」を定め、昭和二十一年一月一日より実施致すことと相成りたるを以て、本区に於いては本部の要綱に基き「豊島区町会及隣組設置要綱」を定め之により新に発足致すことと相成りたるも、右は町会及隣組が隣保相扶の精神に基き区民自ら任意且自主的に結合し町会員共同の福祉増進と生活刷新充実を目的とせるも、従来稍もすれば其の自主性を脆弱ならしめ或いは自治的運営を制約する点あるやに鑑み、終戦を機とし其本然の使命に照し町民の自由なる意志に依り之が組織運営を計り其の機能を遺憾なく發揮し、以て

平和日本の建設に寄与せんとする趣旨なるを以て左記事項に御留意の上其の措置運営に万遺漏なきを期せられ度（以下略）

戦後の諸改革のなかで戦時中の町会・隣組をどうするかは重要な問題でした。これはその過程のなかでの一コマです。（青木）

恒編 佳米 後俊 記

少しでも見やすいものにしたということを心がけてきました。手刷りでは写真の印刷に限界がありました。今回それを見かねた豊島新聞社の方が、写真の製版部分の手助けをしてくださいました。そのおかげで、前号よりも見やすい紙面になったのではないかと思います。今後、内容等に関するみなさまの感想をお寄せいただければありがたく思います。「福岡」

かたべ

No. 48

1998年1月25日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-3980-2351

豊島区広報印刷物

L30-09-076